

## 9 原爆展の開催について

(厚生労働省・外務省関係)

### 要望内容

#### 海外での原爆展の拡充

#### (要 旨)

広島・長崎両市は、今日まで、被爆の実相を国の内外に伝えるとともに、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。

その手段の一つとして、これまで、北米、欧州、アジア、大洋州及び中南米の諸都市において原爆・平和展を開催し、大きな反響を得てきましたが、一方で、原爆被害の実相がいまだ十分に知られていないことも事実です。

核兵器をめぐるのは、核兵器禁止条約の発効から2年が経過しますが、核保有国は核戦力の増強や核兵器の近代化を進め、核軍縮の停滞や核不拡散の後退が指摘されるなど、実質的な核軍縮議論は進んでおらず、同条約の原動力となった被爆者の切実な願いに反する状況にあります。原爆・平和展の開催は、核兵器廃絶の国際世論を高め、核抑止力に依存する核保有国の政策を変えさせていく上で、有効な手段の一つであり、人類史上唯一の被爆体験を持つ我が国には、被爆の実相を伝える積極的な取組が求められています。

こうした中、本市では、平成7年以来、核超大国であるアメリカ、ロシアを始めとする20か国56都市において「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催しています。

国におかれては、本年度、ジョージアにおいて原爆展を開催いただく予定となっていますが、今後より一層広く国内外に被爆の実相を伝えていくため、海外での原爆展の拡充について、格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」について

1 事業主体

広島市、長崎市、現地主権団体

2 事業内容

(1) 開催場所

核保有国を中心とした各国の主要都市

(2) 主な内容

ア 被爆の実相や現在の核の状況、今日の広島・長崎の姿を示す写真パネル等及び市民が描いた原爆の絵の展示

イ 被爆資料の展示

ウ 被爆の実相を伝えるビデオの上映

エ 被爆体験証言の開催 など

3 これまでの開催状況（平成 30 年度以降）

開催場所	開催期間	入場者数	備考
フランス・カーン市 カーン記念館	平成30年9月20日 ～10月31日	約1万人	
ベルギー・イーペル市 イーペル博物館	平成30年11月9日 ～12月2日	約2,100人	
米国・ロチェスター市 ロチェスター・モンロー郡中央図書館	令和元年9月16日 ～10月2日	約1,000人	
米国・ロサンゼルス市 全米日系人博物館	令和元年11月9日 ～令和2年3月1日	約2万8,000人	
米国・ホノルル市 戦艦ミズーリ記念館	令和2年8月13日 ～令和3年2月27日	約1万3,500人	
米国・ハワイ郡ヒロ町 ハワイ大学ヒロ校	令和2年12月7日 ～令和3年2月27日	約1,000人	
オーストラリア・シドニー市 オーストラリア国立海洋博物館	令和3年5月21日 ～令和3年8月29日	約16,700人	
米国・ニューヨーク市 国連本部 1階ロビー	令和3年12月13日 ～令和4年1月12日	—	日本原水爆被害者団体協議会との共催
米国・ニューヨーク市 国連本部 1階ロビー	令和4年8月5日 ～令和4年9月2日	—	日本原水爆被害者団体協議会との共催
オーストラリア・キャンベラ市 オーストラリア国立大学	令和4年9月6日 ～令和4年11月30日	約1,370人	
ポーランド・グダンスク市 グダンスク第二次世界大戦博物館	令和4年10月14日 ～令和4年12月31日	約8,400人	